

秋の養分転流促進の管理について

2025/10
アグリ技研(株)

- 1.目的 ①春芽増収対策 ②秋芽の萌芽抑制

2.強制休眠方法 (取組)

- ①暖秋冬であれば、だらだらと若茎は萌芽するので、水分のコントロールで強制的に抑制させる。

②11/上旬の平均気温15℃になり休眠導入すために、この時期から水分を控える。

③最低気温10℃程なれば、養分転流は急激に促進されるので、この時期から十分に水分をえる。
- 「灌水を15～20日に1回程」

「灌水は3～5日に1回程」

項目	作業	9月	10月				11月			12月		
		下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
新栽培	平年の平均気温(久留米)	22.2	20.3	18.8	16.3	14.7	12.5	10.6	8.7			
	平年の最低気温(10℃前後)					10.3						
	水管理	通常通り		控える15～20日に1回				3～5日置きに刈取まで灌水				
	肥料	「止肥」						PKゴー2000倍を7～10日置きに3～5回葉面散布				
	防除	灌水を控え乾燥するので十分な防除										

水を控える時期の水分
土壌水分値 ※PFの数値では 2.0～3.5 手で触り判断する場合は、土を握り固まらない程度の乾燥状態とする

3.新栽培管理のポイント

- ①高温であっても10月上・中旬で灌水を控える。(燐芽は成長する)
「10月上旬から15～20日置きに灌水に切り替え11月中旬以降は3～5日置きに灌水処理する」
- ②地上部の養分を貯蔵根に貯めて遅くまで秋芽の萌芽に使用させない制限を行う。(秋芽の整理をする)
「養分に貯蔵根に蓄え、若茎の消費を抑制して春芽の備える」
- ③水を抑制するので、十分な防除なり施肥は的確に行う。(乾燥気味で推移する「根域充実のためにアミクエは定期的な処理」)
「根域充実のために後半のアミクエの灌注は定期的に処理する」